上小阿仁村林道施設長寿命化計画

（個別施設計画）

令和２年３月　策定

上小阿仁村

上小阿仁村林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

１．基本事項

本村が管理する林道施設（橋梁）は、平成３０年度末現在で１４橋であり、老朽化の対策が大きな課題となっている。今後、施設の補修・更新に要する経費が増大することが見込まれていることから、可能な限りコスト縮減への取組が不可欠となる。

このことから、上小阿仁村では林道施設の長寿命化と補修・更新に係るトータルコストの縮減や財政負担の平準化を図るとともに、林道利用者の安全性を確保するため、「上小阿仁村林道施設長寿命化計画（個別施設計画）」を策定する。

これにより、橋梁点検診断の結果の「健全度」と、橋梁の「重要度」を考慮した修繕優先順位を設定し、限られた予算内で予防的な補修、機能強化及び計画的な施設の更新し、長寿命化対策を進めていく。

２．対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

３．計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

４．施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

５．施設の状態等

本計画における施設毎の状態等については別紙のとおりである。

６．対策内容と実施期間

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙のとおり計画する。

７．対策費用

個別施設計画ごとの対策費用の概算については別紙のとおりである。なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な金額や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合ある。

資料1：個別施設計画一覧表（橋梁）

No.	林道台帳路線番号	個別施設計画番号	路線名	林道種類及び区分	橋梁名	所在地	起点からの距離（m）	建設年度	併用年数	種別	型式	道路橋示方書	橋格	橋下条件	橋長（m）	車道幅員（m）	上部工形式	橋台工式	橋脚工式	施設現況			優先度	計画期間					措置記録						備考
																				点検実施年月日	判定区分	所見		計画期間	内容		実施予定期間	対策費用（概算：百万円）	実施年月日	内容		対策費用（百万円）	再判定実施年月日	再判定区分	
																									分類	概要（数量）				分類	概要（数量）				
1	3	2-1	駒川線	自動車道2級	無名橋	仏社字長信田沢38		S.46				-	-	沢	6	3.6	RC中実床版	不明	-	2019年9月11日	Ⅱ	主桁下面に部分的な漏水及び剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・02共に漏水がみられた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
2	6	3-1	仏社線	自動車道3級	1号橋	仏社字国見沢		S.36				-	-	沢	7	3	RCT桁橋	不明	-	2019年9月11日	Ⅲ	主桁下面にうき・剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・橋台02共に剥離・鉄筋露出及びひびわれが見られた。、路面では防護柵01・02共に変形・欠損が見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	高	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
3	6	3-2	仏社線	自動車道3級	2号橋	仏社字国見沢		S.37				-	-	沢	10	3.0	RCT桁橋	不明	-	2019年9月11日	Ⅱ	主桁下面に部分的な剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・02共に剥離・鉄筋露出及び漏水・遊離石灰が見られた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
4	9	3-1	五反沢国見沢線	自動車道2級	1号橋	五反沢字森の下		S.42				-	-	沢	8	3.6	RC中実床版	不明	-	2019年9月9日	Ⅱ	主桁下面に部分的な剥離が見られ、橋台01・02共に漏水・遊離石灰が見られた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
5	9	3-2	五反沢国見沢線	自動車道2級	2号橋	五反沢字森の下		S.42				-	-	沢	8	3.6	RCT桁橋	不明	-	2019年9月9日	Ⅱ	主桁下面に部分的なうき・剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・02共に漏水・遊離石灰および剥離が見られた。路面では防護柵01・02共に変形・欠損が見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
6	9	3-3	五反沢国見沢線	自動車道2級	3号橋	五反沢字森の下		S.43				-	-	沢	4	3.6	RC中実床版	不明	-	2019年9月9日	Ⅱ	主桁下面に部分的な剥離・鉄筋露出及び漏水・遊離石灰が見られ、橋台01・02共に漏水が見られた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
7	9	3-4	五反沢国見沢線	自動車道2級	4号橋	五反沢字森の下		S.43				-	-	沢	4	3.6	RC中実床版	不明	-	2019年9月9日	Ⅱ	橋台01・02共に全体的な漏水が見られ、路面では全体的な土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
8	10	4-1	沼の沢線	自動車道2級	1号橋	五反沢字沼ノ沢		S.38				-	-	沢	9	3.6	RCT桁橋	不明	-	2019年9月10日	Ⅲ	主桁下面に部分的なうき・剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・02共に剥離及び漏水が見られた。路面では防護柵01・02共に変形・欠損が見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	高	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
9	10	4-2	沼の沢線	自動車道2級	2号橋	五反沢字沼ノ沢		S.38				-	-	沢	6.2	3.6	RC中実床版	不明	-	2019年9月10日	Ⅱ	主桁下面に全体的な漏水と部分的な剥離が見られ、橋台01・02共に漏水・剥離が見られた。路面では地覆01に剥離・土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
10	10	4-3	沼の沢線	自動車道2級	3号橋	五反沢字沼ノ沢		S.39				-	-	沢	5	3.6	RC中実床版	不明	-	2019年9月10日	Ⅱ	主桁下面に部分的な漏水が見られ、橋台01・02共に漏水・遊離石灰が見られた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
11	12	5-1	春沢線	自動車道2級	春沢橋	沖田面字屋敷		S.39				-	-	沢	60.0	4.0	HBBC	不明	-	2014年8月27日	Ⅱ	主桁・横桁に腐食がみられ床版については一部ひび割れが見られた。鋼部材全体に腐食がみられ、橋台の一部にひび割れ、遊離石灰が見られた。予防保全の観点から補修を検討することが望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
12	12	5-2	春沢線	自動車道2級	芹田橋	五反沢字芹田		S.58				-	-	沢	20.5	4.0	HBBC	不明	-	2019年9月12日	Ⅱ	主桁・対傾構・支承を含む鋼部材全体に腐食がみられ、橋台01・02ともに、全体的な漏水及びひびわれがみられた。路面では防護柵01・02ともに腐食および伸縮装置・路面の土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討することが望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
13	12	5-3	春沢線	自動車道2級	堰根沢橋	五反沢字		S.61				-	-	沢	31.6	4.0	HBBC	不明	-	2019年9月12日	Ⅱ	橋台01・02ともに、全体的な漏水がみられ、床版ではうき・剥離・鉄筋露出が見られた。路面では防護柵01に変形・欠損および排水桝・路面の土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討することが望ましい。	中	H32～H41	点検	定期点検による経過観察	H34	0.4							
14	22	6-1	祝の沢線	自動車道2級	祝の沢橋	五反沢字多々羅沢		S.56				-	-	沢	31.6	4	HBBC	不明	-	2019年9月13日	Ⅱ	主桁・横桁・支承を含む鋼部材全体に腐食がみられ、橋台01・02ともに、全体的な漏水がみられた。路面では防護柵01・02ともに変形・欠損および排水桝・路面の土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討することが望ましい。	中	H32～H41	工事 点検	工事による補修 定期点検による経過観察	H32、 H36、H41	5.82							

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
1	－	－	開放型	2019.09.11

橋梁名	無名橋		路線名	駒川線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	6.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RC中実床版	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	3.90 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.90 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁下面に部分的な漏水及び剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・02共に漏水がみられた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	剥離・鉄筋露出　漏水・遊離石灰	写真3・4・5
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真1・2
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真6

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
2	－	－	開放型	2019.09.11

橋梁名	1号橋		路線名	仏社線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	7.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RCT桁橋	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

			左側			中央帯	右側		
幅員	全幅員	3.70 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.00 m	0.35 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	0.35 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅲ

（所見等）主桁下面にうき・剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・橋台02共に剥離・鉄筋露出及びひびわれが見られた。、路面では防護柵01・02共に変形・欠損が見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	写真9・10・11・12・13・15・16
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	剥離・鉄筋露出　ひびわれ	写真1・2・3・4・5・6・7・8・17・18・19
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅲ	変形・欠損	写真21・22

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
3	－	－	開放型	2019.09.11

橋梁名	2号橋		路線名	仏社線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	10.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RCT桁橋	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	4.20 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.50 m	0.35 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	0.35 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁下面に部分的な剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・02共に剥離・鉄筋露出及び漏水・遊離石灰が見られた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	写真7・8・11
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	剥離・鉄筋露出　漏水・遊離石灰	写真1・3・5・6
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅱ	土砂詰まり(写真2)	写真12・13

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
4	－	－	開放型	2019.09.09

橋梁名	1号橋		路線名	五反沢国見沢線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	8.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RC中実床版	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	4.00 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.60 m	0.2 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	0.2 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁下面に部分的な剥離が見られ、橋台01・02共に漏水・遊離石灰が見られた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	剥離・鉄筋露出　漏水・遊離石灰	写真5・6・7・8
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真2・3・4
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真9・10

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
5	－	－	開放型	2019.09.09

橋梁名	2号橋		路線名	五反沢国見沢線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	8.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RCT桁橋	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	4.00 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.60 m	0.2 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	0.2 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁下面に部分的なうき・剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・02共に漏水・遊離石灰および剥離が見られた。路面では防護柵01・02共に変形・欠損が見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真4・5・7
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	剥離・鉄筋露出　漏水・遊離石灰	写真1・2・3
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅱ	変形・欠損	写真10・11

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
6	－	－	開放型	2019.09.09

橋梁名	3号橋		路線名	五反沢国見沢線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	4.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RC中実床版	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	4.00 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	4.00 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁下面に部分的な剥離・鉄筋露出及び漏水・遊離石灰が見られ、橋台01・02共に漏水が見られた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	剥離・鉄筋露出　漏水・遊離石灰	写真3・4
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真1・2
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真5・6

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
7	－	－	開放型	2019.09.09

橋梁名	4号橋		路線名	五反沢国見沢線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	4.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RC中実床版	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	4.00 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	4.00 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）橋台01・02共に全体的な漏水が見られ、路面では全体的な土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅰ	—	—
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真1・2
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真3

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
8	－	－	開放型	2019.09.10

橋梁名	1号橋		路線名	沼の沢線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	9.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RCT桁橋	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	4.20 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.60 m	0.3 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	0.3 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅲ

（所見等）主桁下面に部分的なうき・剥離・鉄筋露出が見られ、橋台01・02共に剥離及び漏水が見られた。路面では防護柵01・02共に変形・欠損が見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真10・11・12・13・15
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅲ	剥離・鉄筋露出　漏水・遊離石灰	写真1・2・3・4・5・6・7・8・9
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅲ	変形・欠損　剥離・鉄筋露出	写真18・19・20・21

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
9	－	－	開放型	2019.09.10

橋梁名	2号橋		路線名	沼の沢線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日		活荷重・等級		適用示方書	
橋長	6.20 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RC中実床版	下部構造形式		基礎形式	

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	4.60 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.60 m	0.5 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	0.5 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁下面に全体的な漏水と部分的な剥離が見られ、橋台01・02共に漏水・剥離が見られた。路面では地覆01に剥離・土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	剥離・鉄筋露出　漏水・遊離石灰	写真13・14・15・16・17
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	剥離・鉄筋露出　漏水・遊離石灰	写真1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅱ	剥離・鉄筋露出	写真18

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
10	－	－	開放型	2019.09.10

橋梁名	3号橋		路線名	沼の沢線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	5.00 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	RC中実床版	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	3.90 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.60 m	0.15 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	0.15 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁下面に部分的な漏水が見られ、橋台01・02共に漏水・遊離石灰が見られた。路面では土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討する事が望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真4
	横桁	—	—	—
	床版	—	—	—
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真1・2・3
支承部		Ⅰ	—	—
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真5

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

一般管理型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
11	－	－	開放型	2014.8.27

橋梁名	春沢橋		路線名	榛沢線		管轄	秋田県
所在地	自	－	距離標	自	－ km		上小阿仁村
	至	－		至	－ km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	60.00 m	総径間数	3 径間		
上部構造形式	HBBC	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	4.00 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	3.70 m	0.15 m	－ m	－ m	－ m	－ m	－ m	0.15 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁に腐食、床版に床版ひびわれが見られる。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	腐食	写真1、第3径間、主桁
	横桁	Ⅱ	腐食	写真1、第3径間、横桁
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真2、第1径間、床版04
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真3、第2径間、下部工02
支承部		Ⅱ	腐食	―
その他		Ⅱ	路面	写真4、第3径間、路面

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

予防保全型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
12	ー	ー	開放型	2019.09.12

橋梁名	堰根沢橋		路線名	春沢線		管轄	秋田県
所在地	自	ー	距離標	自	ー　km		上小阿仁村
	至	ー		至	ー　km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	31.60 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	HBBC	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	5.20 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	4.00 m	0.6 m	－ m	ー m	－ m	－ m	－ m	0.6 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁・対傾構・支承を含む鋼部材全体に腐食がみられ、橋台01・02ともに、全体的な漏水及びひびわれがみられた。路面では防護柵01・02ともに腐食および伸縮装置・路面の土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討することが望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅱ	腐食	写真14
	横桁	Ⅰ	－	－
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真9・11・12・13
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写真22・23
支承部		Ⅱ	腐食	写真7・8・15・16
その他		Ⅱ	腐食	写真4

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

予防保全型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
13	ー	ー	開放型	2019.09.12

橋梁名	芦田橋		路線名	春沢線		管轄	秋田県
所在地	自	ー	距離標	自	ー km		上小阿仁村
	至	ー		至	ー km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	20.50 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	HBBC	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	－	大型車混入率	－
	交通量	－	荷重制限	－

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	5.20 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	4.00 m	0.6 m	－ m	ー m	－ m	－ m	－ m	0.6 m

海岸からの距離	－ m	緊急輸送路の指定	－	優先確保ルートの指定	－
路下条件	河川			施業計画	－

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）橋台01・02ともに、全体的な漏水がみられ、床版ではうき・剥離・鉄筋露出が見られた。路面では防護柵01に変形・欠損および排水桝・路面の土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討することが望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅰ	－	－
	横桁	Ⅰ	－	－
	床版	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	写真29
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真23・24・25・26・27
支承部		Ⅱ	腐食	写真16・17・20・21・22
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真3・5

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）					0.2					0.2
対策内容・実施期間					定期点検					定期点検

予防保全型橋梁　定期点検調査帳票

橋梁諸元と総合検査結果				
個別施設整理番号	林道台帳索引番号	林道の種類及び区分	路線区分	点検実施日
14	ー	ー	開放型	2019.09.13

橋梁名	祝ノ沢橋		路線名	祝の沢線		管轄	秋田県
所在地	自	ー	距離標	自	ー km		上小阿仁村
	至	ー		至	ー km		建設課

供用開始日	不明	活荷重・等級	不明	適用示方書	不明
橋長	31.60 m	総径間数	1 径間		
上部構造形式	HBBC	下部構造形式	不明	基礎形式	不明

交通条件	調査年	-	大型車混入率	-
	交通量	-	荷重制限	-

幅員			左側			中央帯	右側		
	全幅員	5.20 m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線	歩道幅	地覆幅
	有効幅員	4.00 m	0.6 m	- m	ー m	- m	- m	- m	0.6 m

海岸からの距離	- m	緊急輸送路の指定	-	優先確保ルートの指定	-
路下条件	河川			施業計画	-

総合検査結果

健全度（橋単位）	Ⅱ

（所見等）主桁・横桁・支承を含む鋼部材全体に腐食がみられ、橋台01・02ともに、全体的な漏水がみられた。路面では防護柵01・02ともに変形・欠損および排水桝・路面の土砂詰まりが見られた。予防保全の観点から補修を検討することが望ましい。

部材単位の健全度（各部材の最悪値を記入）

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等がわかるように記載）
上部構造	主桁	Ⅰ	-	-
	横桁	Ⅰ	-	-
	床版	Ⅱ	床版ひびわれ	写真20・33
下部構造		Ⅱ	漏水・遊離石灰	写真25・26・27・28・29
支承部		Ⅱ	腐食	写真21・22
その他		Ⅱ	変形・欠損	写真6・7

	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
対策費用（百万円）	5.42				0.2					0.2
対策内容・実施期間	補修工事				定期点検					定期点検

修繕優先順位の設定

修繕優先順位は、橋梁点検結果の「健全度」と、橋梁の「重要度」を考慮し設定する。

１）健全度評価点の設定

橋梁の健全度の設定は、「秋田県橋梁点検マニュアル（案）」の「健全度算出基準」を基に設定する。

健全度は、橋梁点検の結果を基にして算出する。全く損傷がなく，健全な状態を《健全度＝100》とし，損傷等級から算出される損傷評価点の合算値を 100 から減じたものを対象となる部材の健全度とする。

【健全度算出の手順】

① 点検で得られた損傷等級を基に「損傷種類の重大性」を評価した重み係数を考慮し損傷評価点（DG；Damage Grade）を算出する。

② 全く損傷がなく健全な状態を 100 とし，100 から損傷評価点を減点したものを部材の健全度（HI；Health Index）とする。

健全度（HI）＝100－Σ損傷評価点（DG）

③ 部材別の損傷評価点および部材・工種の重要性を評価した重み係数を基に，統合法により橋梁／径間／工種／部材の健全度を段階毎に算出する。

表 2.1 損傷評等級と損傷点

損傷等級	概念	一般的な状況	損傷点
A	〔良好〕	損傷が特に認められない	0
B	〔ほぼ良好〕	損傷が小さい	25
C	〔軽度〕	損傷がある	50
D	〔顕著〕	損傷が大きい	75
E	〔深刻〕	損傷が非常に大きい	100

3．健全度算出で考慮する部材

点検対象部材のうち、橋梁の健全度を決定する上で、対象となる部材を以下のように定めた。

交換可能である部材（路上・路面施設、落橋防止）については、悪くなった時点で更新すれば良く、それ自体が橋の耐荷力や耐久性に影響を与えることがないので対象から除外した。

健全度算出で考慮する部材（着色した部材が考慮する部材）

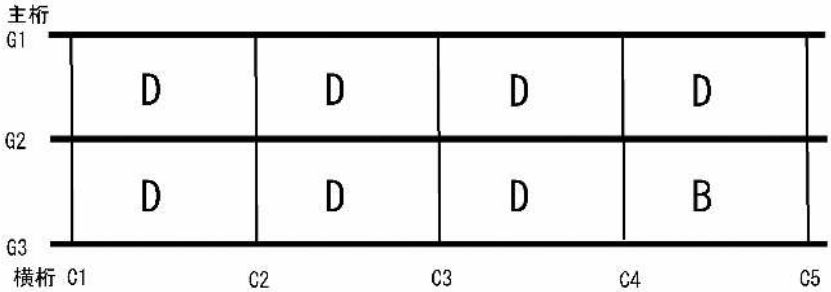
工　種	部　　材
上部工	床版
	主構
	床版・主構以外（主要な部材）
下部工	躯体
	基礎
支承部	本体
	沓座
	落橋防止
路上	高欄、防護柵
	遮音施設
	照明、標識施設
路面	地覆
	舗装
	伸縮装置
その他	排水施設
	点検施設
	添架物
	袖擁壁

2）損傷評価点の算出方法

4．1　部材別の損傷評価点

点検で得られた損傷等級を基に「損傷種類の重大性」を評価した重み係数を考慮し損傷評価点（DG；Damage　Grade）を算出する。

【床版の場合】



「床版ひびわれ」のみが【A:0%,B:10%,C:0%,D:90%,E:0%】とあったとする。

床版

損傷の種類	補正係数	損傷等級及び損傷評価点 A 0	B 25	C 50	D 75	E 100	合計	補正後合計
07剥離・鉄筋露出	0.13	100		0		0	0	0.00
08漏水・遊離石灰	0.13	100		0		0	0	0.00
09抜け落ち	1.00	100					0	0
10コンクリート内強材の損傷	0.25						0	0
11床版ひびわれ	0.75	0	10	0	90	0	70	52.50
12うき	0.00	100				0	0	0
18定着部の異常	0.25						0	0
17変色・劣化	0.00	100					0	0
損傷評価点合計								52.50

損傷評価点〔DG〕＝0.75×(25×0.1＋75×0.9)＝53

床版の健全度〔HI〕＝100－53=47

4．2　工種・径間の損傷評価点

床版の損傷評価点〔DG〕＝0.75×(25×0.1＋75×0.9)＝53

部位		径間別評価 評価点	工種別評価点 補正係数	工種別評価点 評価点	部材別評価点 補正係数	部材別評価点 評価点
上部工	床版	63.02	1.00	×51.00	0.80	× 53
	主構				1.00	× 10
	床版・主構以外（主要な部材）				0.20	× 10
下部工	躯体		0.6	×6.70	0.67	× 10
	基礎				1.00	× 0
支承部	本体		0.4	×12.50	1.00	× 10
	沓座				0.25	× 10

上部工の評価点〔DG〕＝1.00×(0.8×53＋1.0×10＋0.2×10)＝54

上部工の健全度〔HI〕＝100－54=46

径間の評価点〔DG〕＝1.00×54＋0.6×6.7＋0.4×12.5)＝63

径間の健全度〔HI〕＝100－63=37

橋梁単位の優先度は〔HI〕は，径間単位の健全度の最小値とする。

3）損傷種類ごとの補正係数及び損傷等級ごとの評価点

①上部工

(a1) 床版ー鋼部材　　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
01	腐食	0.50	◎	◎	◎	◎	◎
02	亀裂	1.00	◎	－	◎	－	◎
03	ゆるみ・脱落	0.17	◎	－	◎	－	◎
04	破断	1.00	◎	－	－	－	◎
05	防食機能の劣化	0.17	◎	－	◎	－	◎
21	異常な音・振動	0.17	◎	－	－	－	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	－	◎	－	◎

【亀裂の損傷評価点を100として補正係数を設定】

(a2) 床版ーコンクリート部材　　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
07	剥離・鉄筋露出	0.13	◎	－	◎	－	◎
08	漏水・遊離石灰	0.13	◎	－	◎	－	◎
09	抜け落ち	1.00	◎	－	－	－	◎
10	コンクリート補強材の損傷	0.25	◎	－	◎	－	◎
11	床版ひびわれ	0.75	◎	◎	◎	◎	◎
12	うき	0.00	◎	－	－	－	◎
18	定着部の異常	0.25	◎	－	◎	－	◎
19	変色・劣化	0.00	◎	－	－	－	◎

【抜け落ちの損傷評価点を100として補正係数を設定】

(b1) 主構ー鋼部材　　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
01	腐食	0.60	◎	◎	◎	◎	◎
02	亀裂	1.00	◎	－	◎	－	◎
03	ゆるみ・脱落	0.20	◎	－	◎	－	◎
04	破断	1.00	◎	－	－	－	◎
05	防食機能の劣化	0.20	◎	－	◎	－	◎
13	遊間の異常	0.20	◎	－	◎	－	◎
21	異常な音・振動	0.20	◎	－	－	－	◎
22	異常なたわみ	0.20	◎	－	－	－	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	－	◎	－	◎

【亀裂の損傷評価点を100として補正係数を設定】

(b2) 主構ーコンクリート部材　　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
06	ひびわれ	0.33	◎	◎	◎	◎	◎
07	剥離・鉄筋露出	0.67	◎	－	◎	－	◎
08	漏水・遊離石灰	0.17	◎	－	◎	－	◎
10	コンクリート補強材の損傷	0.33	◎	－	◎	－	◎
12	うき	0.17	◎	－	－	－	◎
13	遊間の異常	0.17	◎	－	◎	－	◎
18	定着部の異常	0.67	◎	－	◎	－	◎
19	変色・劣化	0.00	◎	－	－	－	◎
21	異常な音・振動	0.50	◎	－	－	－	◎
22	異常なたわみ	0.33	◎	－	－	－	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	－	◎	－	◎

【ひびわれ＋剥離・鉄筋露出の損傷評価点を100として補正係数を設定】

（c1）床版・主構以外（主要な部材）－鋼部材　　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
01	腐食	0.33	◎	◎	◎	◎	◎
02	亀裂	1.00	◎	－	◎	－	◎
03	ゆるみ・脱落	0.17	◎	－	◎	－	◎
04	破断	1.00	◎	－	－	－	◎
05	防食機能の劣化	0.17	◎	－	◎	－	◎
21	異常な音・振動	0.33	◎	－	－	－	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	－	◎	－	◎

【亀裂の損傷評価点を100として補正係数を設定】

（c2）床版・主構以外（主要な部材）－コンクリート部材　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
06	ひびわれ	0.40	◎	◎	◎	◎	◎
07	剥離・鉄筋露出	0.60	◎	－	◎	－	◎
08	漏水・遊離石灰	0.40	◎	－	◎	－	◎
10	コンクリート補強材の損傷	0.40	◎	－	◎	－	◎
12	うき	0.20	◎	－	－	－	◎
18	定着部の異常	0.80	◎	－	◎	－	◎
19	変色・劣化	0.00	◎	－	－	－	◎
21	異常な音・振動	1.00	◎	－	－	－	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	－	◎	－	◎

【ひびわれ＋剥離・鉄筋露出の損傷評価点を100として補正係数を設定】

②下部工

（d1）躯体－鋼部材　　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
01	腐食	0.60	◎	◎	◎	◎	◎
02	亀裂	1.00	◎	－	◎	－	◎
03	ゆるみ・脱落	0.20	◎	－	◎	－	◎
04	破断	1.00	◎	－	－	－	◎
05	防食機能の劣化	0.20	◎	－	◎	－	◎
20	漏水・滞水	0.20	◎	－	－	－	◎
21	異常な音・振動	0.20	◎	－	－	－	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	－	◎	－	◎

【亀裂の損傷評価点を100として補正係数を設定】

（d2）躯体－コンクリート部材　　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
06	ひびわれ	0.43	◎	◎	◎	◎	◎
07	剥離・鉄筋露出	0.57	◎	－	◎	－	◎
08	漏水・遊離石灰	0.29	◎	－	◎	－	◎
10	コンクリート補強材の損傷	0.71	◎	－	◎	－	◎
12	うき	0.14	◎	－	－	－	◎
18	定着部の異常	0.57	◎	－	◎	－	◎
19	変色・劣化	0.00	◎	－	－	－	◎
20	漏水・滞水	0.14	◎	－	－	－	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	－	◎	－	◎

【ひびわれ＋剥離・鉄筋露出の損傷評価点を100として補正係数を設定】

（e）基礎－コンクリート部材　　注）表中の－は評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
25	沈下・移動・傾斜	0.25	◎	－	－	－	◎
26	洗掘	1.00	◎	－	◎	－	◎

【洗掘の損傷評価点を100として補正係数を設定】

③支承部

(f1) 本体ー鋼部材　　注) 表中のーは評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
01	腐食	0.25	◎	◎	◎	◎	◎
02	亀裂	1.00	◎	ー	◎	ー	◎
03	ゆるみ・脱落	0.50	◎	ー	◎	ー	◎
04	破断	1.00	◎	ー	ー	ー	◎
05	防食機能の劣化	0.00	◎	ー	◎	ー	◎
16	支承の機能障害	0.75	◎	ー	◎	ー	◎
20	漏水・滞水	0.00	◎	ー	ー	ー	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	ー	◎	ー	◎
24	土砂詰り	0.25	◎	ー	ー	ー	◎
25	沈下・移動・傾斜	0.50	◎	ー	ー	ー	◎

【亀裂の損傷評価点を100として補正係数を設定】

(f2) 本体ーゴム部材　　注) 表中のーは評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
16	支承の機能障害	1.00	◎	ー	◎	ー	◎
19	変色・劣化	0.13	◎	ー	ー	ー	◎
20	漏水・滞水	0.25	◎	ー	ー	ー	◎
23	変形・欠損	0.00	◎	ー	◎	ー	◎
24	土砂詰り	0.25	◎	ー	ー	ー	◎
25	沈下・移動・傾斜	0.88	◎	ー	ー	ー	◎

【支承の機能障害の損傷評価点を100として補正係数を設定】

(g) 沓座ーコンクリート部材　　注) 表中のーは評価区分がないもの

損傷の種類		補正係数	損傷等級および損傷評価点				
			A	B	C	D	E
			0	25	50	75	100
06	ひびわれ	0.14	◎	◎	◎	◎	◎
12	うき	0.29	◎	ー	ー	ー	◎
23	変形・欠損	1.00	◎	ー	◎	ー	◎

【変形・欠損の機能障害の損傷評価点を100として補正係数を設定】

各部材の補正係数をまとめたものが下表となる。

部　　材		径間別評価	工種別評価		部材別評価	
		上限値	補正係数	上限値	補正係数	上限値
上部工	床版	100	1.00	100	0.80	100
	主構				1.00	100
	床版・主構以外（主要な部材）				0.20	100
下部工	躯体		0.60	100	0.67	100
	基礎				1.00	100
支承部	本体		0.40	100	1.00	100
	沓座				0.25	100
路上	高欄・防護柵		－	－	0.50	100
路面	地覆				0.50	100
	舗装				0.50	100
	伸縮装置				0.50	100
	排水施設				0.50	100

※ 高欄・防護柵、地覆、舗装、伸縮装置、排水施設は、類似工を基に補正係数を設定し、損傷評価点を算出する。

３）重要度評価点の設定

橋梁の重要度の設定は、橋梁のおかれている社会条件、使用条件、環境条件を考慮して重要度評価点として設定する。

重要度評価点は、下表に示す重要度評価表から算出された橋梁の重要度を定量的に評価したものである。

項目	重み係数 合計1.0	条件及び配点			
交通量	0.25	普通	少	－	－
		100	50	0	－
橋長	0.04	≧100m	100＞L≧50m	50＞L≧15m	15m＞L
		100	70	35	15
全幅員	0.04	≧20m	20＞W≧10m	10＞W≧6m	＜6m
		100	70	35	15
道路種別	0.02	1級林道	2級林道	3級林道	－
		100	75	30	－
迂回路	0.10	あり	なし	－	－
		100	0	－	－
観光利用	0.15	重	中	小	－
		100	50	10	－
維持管理団体	0.10	該当	なし	－	－
		100	0	－	－
地元・管理者要望	0.30	あり	なし	－	－
		100	0	－	－

4）修繕順位の設定

修繕優先順位は、橋梁点検結果の「健全度」と、橋梁の「重要度」を考慮し設定する。

橋梁の健全度　A～E ×　重み係数　＝点数化　0～100点
橋梁の重要度　使用・架橋条件等を点数化　0～100点

なお優先順位カテゴリが同ランクの場合は、健全度の降順で修繕順位を決定する。

重要度の高い橋梁　　重要度の低い橋梁

重大な損傷橋梁

健全な橋梁

点数		重要度評価点		
		100～60点	60～30点	30～0点
健全度評価点	0～30点	優先順位　1	優先順位　2	優先順位　4
	30～60点	優先順位　3	優先順位　5	優先順位　7
	60～100点	優先順位　6	優先順位　8	優先順位　9

【修繕順位の考え方】

① 健全度の低い橋梁（最も劣化）かつ橋梁重要度の最も高い橋梁を最優先とする。
② 優先順位2は健全度が最も悪いが、重要度が中位の橋梁を優先する。
　理由：健全度の低い橋梁を後回しにした場合工事費が多くなることが想定される。
③ 優先順位3は健全度が中位のもので、重要度が高い橋梁を優先する。
④ 健全性の診断“Ⅰ”評価の橋梁は、経過観察対象とし、修繕計画から除外する。

資料４：修繕順位一覧表

No	路線名	橋梁名称	橋長 （m）	橋梁全幅員 （m）	橋梁面積 （㎡）	健全度	健全度 （損傷評価点）	重要度 （重要度評価点）	修繕順位	判定	評価最低点
1	駒川		6.00	3.90	23.4	II	90.78	2.70	優先順位9		2.70
2	仏社	1号橋	7.00	3.70	25.9	III	86.07	12.70	優先順位9		12.70
3	仏社	2号橋	10.00	4.20	42.0	II	92.48	12.70	優先順位9		12.70
4	五反沢国見沢	1号橋	8.00	4.00	32.0	II	92.65	12.70	優先順位9		12.70
5	五反沢国見沢	2号橋	8.00	4.00	32.0	II	87.29	12.70	優先順位9		12.70
6	五反沢国見沢	3号橋	4.00	4.00	16.0	II	89.35	12.70	優先順位9		12.70
7	五反沢国見沢	4号橋	4.00	4.00	16.0	II	97.90	12.70	優先順位9		12.70
8	沼の沢	1号橋	9.00	4.20	37.8	III	84.78	2.70	優先順位9		2.70
9	沼の沢	2号橋	6.20	4.60	28.5	II	91.67	2.70	優先順位9		2.70
10	沼の沢	3号橋	5.00	3.90	19.5	II	96.20	2.70	優先順位9		2.70
11	春沢	春沢橋	60.00	4.00	240.0	II	91.97	14.90	優先順位9		14.90
12	春沢	芹田橋	20.50	5.20	106.6	II	73.20	13.50	優先順位9		13.50
13	春沢	堰根沢橋	31.60	5.20	164.3	II	86.53	13.50	優先順位9		13.50
14	祝の沢	祝の沢橋	31.60	5.20	164.3	II	71.78	13.50	優先順位9		13.50

資料４：修繕順位一覧表

No	修繕順位	路線名	橋梁名称	橋長 （m）	橋梁全幅員 （m）	橋梁面積 （㎡）	健全度	健全度 （損傷評価点）	重要度 （重要度評価点）	修繕順位	判定	評価最低点
8	1	沼の沢	1号橋	9.00	4.20	37.8	III	84.78	2.70	優先順位9		2.70
2	2	仏社	1号橋	7.00	3.70	25.9	III	86.07	12.70	優先順位9		12.70
14	3	祝の沢	祝の沢橋	31.60	5.20	164.3	II	71.78	13.50	優先順位9		13.50
12	4	春沢	芹田橋	20.50	5.20	106.6	II	73.20	13.50	優先順位9		13.50
13	5	春沢	堰根沢橋	31.60	5.20	164.3	II	86.53	13.50	優先順位9		13.50
5	6	五反沢国見沢	2号橋	8.00	4.00	32.0	II	87.29	12.70	優先順位9		12.70
6	7	五反沢国見沢	3号橋	4.00	4.00	16.0	II	89.35	12.70	優先順位9		12.70
1	8	駒川		6.00	3.90	23.4	II	90.78	2.70	優先順位9		2.70
9	9	沼の沢	2号橋	6.20	4.60	28.5	II	91.67	2.70	優先順位9		2.70
11	10	春沢	春沢橋	60.00	4.00	240.0	II	91.97	14.90	優先順位9		14.90
3	11	仏社	2号橋	10.00	4.20	42.0	II	92.48	12.70	優先順位9		12.70
4	12	五反沢国見沢	1号橋	8.00	4.00	32.0	II	92.65	12.70	優先順位9		12.70
10	13	沼の沢	3号橋	5.00	3.90	19.5	II	96.20	2.70	優先順位9		2.70
7	14	五反沢国見沢	4号橋	4.00	4.00	16.0	II	97.90	12.70	優先順位9		12.70

資料5:損傷評価点一覧表

No	路線名	橋梁名称	橋長(m)	橋梁全幅員(m)	橋梁面積(㎡)	健全度	健全度(点)	上部工 全体	下部工 全体	支承部 全体	その他
1	駒川		6.00	3.90	23.4	II	90.78	7.13	3.50	0.00	0.63
2	仏社	1号橋	7.00	3.70	25.9	III	86.07	10.93	5.01	0.00	0.00
3	仏社	2号橋	10.00	4.20	42.0	II	92.48	1.68	9.74	0.00	16.25
4	五反沢国見沢	1号橋	8.00	4.00	32.0	II	92.65	3.38	6.63	0.00	32.50
5	五反沢国見沢	2号橋	8.00	4.00	32.0	II	87.29	6.78	9.90	0.00	25.00
6	五反沢国見沢	3号橋	4.00	4.00	16.0	II	89.35	5.05	9.33	0.00	3.75
7	五反沢国見沢	4号橋	4.00	4.00	16.0	II	97.90	0.00	3.50	0.00	12.50
8	沼の沢	1号橋	9.00	4.20	37.8	III	84.78	5.88	15.57	0.00	17.00
9	沼の沢	2号橋	6.20	4.60	28.5	II	91.67	2.94	8.98	0.00	15.50
10	沼の沢	3号橋	5.00	3.90	19.5	II	96.20	1.70	3.50	0.00	12.50
11	春沢	春沢橋	60.00	4.00	240.0	II	91.97	6.00	3.38	0.00	0.00
12	春沢	芹田橋	20.50	5.20	106.6	II	73.20	16.93	3.13	20.00	43.40
13	春沢	堰根沢橋	31.60	5.20	164.3	II	86.53	0.52	8.16	20.14	60.00
14	祝の沢	祝の沢橋	31.60	5.20	164.3	II	71.78	22.28	7.58	3.50	72.58

資料6:重要度評価点一覧表

下段数字:重み係数

No	橋梁名称	路線名	道路種別	橋長（m）	橋梁全幅員（m）	重要度順位	合計点 1.0	交通量 0.25		橋長 0.04		幅員 0.04		道路種別 0.02		迂回路 0.10		観光利用 0.15		維持管理団体 0.10		地元･管理者要望 0.30	
1		駒川	林道自動車道2級	6.00	3.90	11	2.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	－	0	－	0	－	0	－	0
2	1号橋	仏社	林道自動車道2級	7.00	3.70	5	12.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
3	2号橋	仏社	林道自動車道2級	10.00	4.20	5	12.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
4	1号橋	五反沢国見沢	林道自動車道2級	8.00	4.00	5	12.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
5	2号橋	五反沢国見沢	林道自動車道2級	8.00	4.00	5	12.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
6	3号橋	五反沢国見沢	林道自動車道2級	4.00	4.00	5	12.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
7	4号橋	五反沢国見沢	林道自動車道2級	4.00	4.00	5	12.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
8	1号橋	沼の沢	林道自動車道2級	9.00	4.20	11	2.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	－	0	－	0	－	0	－	0
9	2号橋	沼の沢	林道自動車道2級	6.20	4.60	11	2.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	－	0	－	0	－	0	－	0
10	3号橋	沼の沢	林道自動車道2級	5.00	3.90	11	2.7	－	0	15m＞L	15	6m＞W	15	2級	75	－	0	－	0	－	0	－	0
11	春沢橋	春沢	林道自動車道2級	60.00	4.00	1	14.9	－	0	100＞L≧50m	70	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
12	芹田橋	春沢	林道自動車道2級	20.50	5.20	2	13.5	－	0	50＞L≧15m	35	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
13	堰根沢橋	春沢	林道自動車道2級	31.60	5.20	2	13.5	－	0	50＞L≧15m	35	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0
14	祝の沢橋	祝の沢	林道自動車道2級	31.60	5.20	2	13.5	－	0	50＞L≧15m	35	6m＞W	15	2級	75	あり	100	－	0	－	0	－	0